

メールアドレス
ホームページアドレス

Hanno.gakudou@ace.ocn.ne.jp
<http://hanno-gakudouclub.com/>

飯能市学童クラブの会 事務局発行
042-972-8490
飯能市双柳 353-172



今年は2月に2回も雪が降り、学校や仕事にも影響が出て大変でした。3月はどうか雪が降りませんように・・・

法人学習会 所沢の春口さんをお迎えして

2月8日(木)

30年以上所沢の専従職員として学童保育の発展に携わり県内(全国?)初のNPO法人を取得した経験をわかりやすくお話ししていただきました。法人を取得するメリットは何か、取得するにはどのように動けばよいのか、市とのかかわりは等、実際に法人化できるかどうかもクラブの会ではこれからの議論になりますが、その前段階の学習会ができたと思います。

参加者は、保護者6名、指導員10名、理事3名、事務局2名

【感想】

○法人に関する知識が得られ勉強ができた ○法人の種類等まったく知識がなかったのでとても勉強になった。難しい手続き等ありそうでもまだまだ勉強が必要だと思った ○想像していたよりも大変なことだという事が知れただけでも今日参加して良かった ○今の段階では全く分からない。まだまだ勉強することが多いと思うし、理解するまで時間がかかる気がした。所沢の状況を聞くことができて良い事と悪い面もお話してくれて今後の学童のあり方をもう少し勉強していきたいと思う ○NPO法人と一般社団法人の違いが少しだけわかったような気がした。NPO法人になる前となった後の違いや、やっておけばよかったことなど具体的な話が聞いて勉強になった ○言葉では知っていたが、NPO法人と社団法人の違い等分かりやすく説明していただいたのでよくわかった。そして所沢の今の状態を聞くと、なんだか足踏みしてしまうような気がする。

【法人化についての疑問や意見】

ONPOを取ったら補助金ではなく事業委託してもらえる団体になれるか、とと思っていたがハードルはいろいろありそう ○大きな金額を扱うために法人化が必要と言われるとそうなのかな、と思う ○所沢の話聞いてNPOにして指定管理制度を導入されると大変なことになってしまう、と思った ○法人について知識がない中の参加だったが、多少は理解することができたと思う。なにより組織にとってより良い方向を見定めることが大切だと思った。 ○まだまだ理解していないこともたくさんある。もう少し組織の作り方なども聞きたい。



議員懇談 市議さん 9名参加

2月15日(木)

今年の議員懇談会は9名の市議さんの参加がありました。会派を問わず学童保育を支持していただけることは、今後の子どもたちの生活環境の改善に必ずつながります。そう信じて意見交換を行いました。

30年度の国の予算が増加する代わりに、市単独補助が減額すること。飯能市として予算化している事業費、工事費(分割のため?)等、児童クラブが30年度から3年間で3ヶ所増。市は全児童対策事業も視野に入れ、所沢の「放課後ところ」を参考モデルに考えているとの事。飯能市ではその昔、「ハッピースマイル」という企業が学童保育と保育所に参入してきました。が、半年で倒産し、たくさん子どもたちと保護者が明日から行き場がなくなるという事態がおきました。その時担当課から13名の子どもたちをどろんこクラブに受け入れ依頼がありました。飯能市はその時のことを踏まえて現在一般企業の学童参入はありませんが、全国的には増えていることは確かです。同じことを繰り返さないためにも、市議の方には放課後児童クラブと全児童対策の違いを分かっていたいただきたいと思いました。

今回は1時間ちょっとしか時間がない中での懇談でしたが、市議の考えも聞けたし、それに対して意見交換も活発にできたという感想を頂きました。3月議会が始まり、双柳の分割、施設新設に関する経費が計上されたという事です。4月の子どもたちを迎える時期になり一小地区、加治地区共に大規模学童になります。人員の確保と同時に分割も進めていく必要があります。今後も市議の方々との意見交換や情報交換は必要だと思いました。



☆☆ほいく誌の感想☆☆

ほいく誌3月号 【特集】明日へとつなげる日々の記録

学童保育指導員の子どもがいない時間帯の仕事として、「日々の記録」があります。記録の仕方は人それぞれだと思いますが、自分用の記録ノートを作っている人は多いと思います。この「記録」は振り返りや実践記録検討を通じて指導員の「子どもを見る目」を養い力量を高めることにつながります。

また、おたよりで保護者の皆さんへ我が子の様子を伝えるだけにとどまらず、子ども達同士のぶつかりながらもつながっていく様子がわかり、そのことで保護者同士がつながっていくきっかけになったりします。

今回の特集のいずれも「記録」の大切さを実感させられるものばかりですが、私が特に気に入っているのはP.20~23の石川県の指導員、重木さんの「ひとみちゃん」の事例です。ケンカやもめ事の場面で一言も話せなくなるひとみちゃん。それに対して重木さんは「言いたくても言えない」と思っていたのですが、あるとき「実は言いたくなかった」という強い意志があることに気がつくのです。重木さんは『この時期だからこそ、ひとみが「自分の思いを相手に率直に伝える」経験ができれば…』『たとえ対立したとしても、思いを出しあうことは、互いのことをより深く知ることにもつながるんだよ…と伝えたい』と思うようになったのです。その結末がどうなったか？気になる方はほいく誌を読んでみてください！

P.27~30の山形県の保護者、三浦さんの記録もおすすめです。

「記録」は子どもと保護者と指導員をつなぐ大切なものです。そして「記録」は受け継がれて、いつの時代も子ども達と保護者を守ってくれるものだと思います。

ほいく誌4月号 【特集】はじまるよ！学童保育ー「ただいま」と「おかえり」

年度末を迎え、卒業式・修了式を終えると4月からは新たに仲間入りする子ども達が学童にやってきます。前日までは保育所や幼稚園にいた子ども達や、小学校入学を機に働き方を変える保護者の皆さんやその子ども達、引っ越ししてきて新生活をスタートする人達…皆さんどんな気持ちで学童のドアをたたくのでしょうか。緊張するかな？不安だったりするかな？お兄さんお姉さんがすでに学童っことで、お迎えに何度も来ているからへっちゃら！だったり、新しい環境が楽しみで楽しみで仕方がない子もいるかもしれません。新年度にふさわしく、「初めての時はこうだったよ」「学童ってこんなところだよ」といった特集が組まれています。新しく仲間入りする皆さんだけでなく、在籍されている皆さんも、懐かしく読めるのではないのでしょうか。

P.21~23「子どもたちのエールに支えられて」岩手県の保護者・菊池さんの記事をご紹介します。初めて学童を利用するようになってからもう10年のお母さんです。

「やってあげたいことは頭のなかにいっぱいあるけれど、実際は、そのうちの一つでもやってあげられたかどうか…という状況」だったという菊池さん。そんなときに学童保育の保護者会総会で指導員から声をかけられ、お子さんががんばっている様子に気づくことができました。「それからは、私が働いていることへの後ろめたさは消え、『娘を応援しよう』と思えるようになり、私自身、以前より元気に迎えに行けるようになりました。」とあります。「後ろめたさ、働くお父さんお母さんは少なからず抱える思いではないでしょうか。そんなときに子ども達が「仕事がんばってねー！」「おかえりー！」と応援してくれたらどんなにか気持ち軽くなるのでしょうか。菊池さんの記事は、自分自身に振り返っても共感できる内容でした。

子ども達にとっても、保護者の皆さんにとっても、安心できる心のより所でありたい…そんな風に思っています。たくさん保護者の思いをご一読いただければ嬉しいです。

最後に、ほいく誌4月号からの文章を引用させていただきます。

『日本の学童ほいく』は創刊以来、これらの取り組みの一翼を担ってきました。働くことと子育てを上げますこと、保護者と指導員の共感を築くこと、指導員の実践（生活づくり）を深めること、そして学童保育をよりよくすることに役立つ月刊誌として読み広められてきました。ぜひ、さまざまな機会に活用していただければ幸いです。」